

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400428		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターいわき小名浜(かつお)		
所在地	福島県いわき市小名浜岡小名字仏玄前3-1		
自己評価作成日	平成30年9月25日	評価結果市町村受理日	平成30年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成30年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当事業所は閑静な住宅街にあって、南側に面した場所には花壇や畑、その先には広々と田畑がる風景を眺めながら日々季節感を感じられる環境の中で、お客様とスタッフが穏やかに過ごしています。お客様には、ここでの生活は家庭の延長と捉えてもらい、自己決定を重視しスタッフと一緒に食事のメニューや今日は何をするか決めていきます。また、「笑顔・感動・感謝」をモットーとし共有しています。地域の高齢者の草刈支援や高校生ボランティアとの手作業など地域交流も増えています。
 ・スタッフの自己啓発意欲も強く、内部研修は月1回から2回また地区研修会の高齢者虐待防止研修や身体拘束適正会議研修、専門職技術向上研修、応急手当普及員養成講習資格取得者2名などさまざまな研修に参加しスキルアップを目指し質の高いサービスに繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 管理者を中心に職員同士のコミュニケーションが円滑に図られており、職員のやさしい笑顔と生き生きとした行動は、自然と利用者の表情も明るく和やかな雰囲気となり、理念の「日々の生活を笑顔で過ごします」が活かされている。また、運営推進会議やミーティング等での情報共有と率直な意見交換は利用者の思いや意向を尊重したケアに反映され、家族との信頼関係につながっている。
 2. 法人は介護事業を全国展開しており、豊富な経験と知識をもって各事業所を支えるサポート体制が確立されており、全職員が適切に研修の機会を与えられている。資格取得に対しての支援もあり、全職員が資格取得や更なるレベルアップに意欲的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で社是と事業所理念の唱和を行い、「感動・感謝・笑顔」が自然体になるよう共有、実践し意識力を高めている	理念には利用者と職員が共に「感動・感謝」の心で、日々笑顔で過ごすことをうたっており、毎朝唱和し、利用者が住み慣れた地域の中で明るく充実した暮らしを送れるよう心がけ支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、町内の清掃活動等へ積極的に参加している。また、ホーム便りを回覧していただき、地域住民への理解を求めている。地域の高齢者との交流もあり草むしりの支援、ホームイベントの参加や、利用者と一緒に地区の青空市に参加するなど交流を楽しみにしている	地域住民とは地区の行事や事業所の行事を通して日常的に交流している。地域のボランティアも数多く受け入れており、特に中・高校生のボランティアは好評で利用者の楽しみになっている。日課の散歩等では近隣の方々に声をかけてもらうなど顔なじみとなり、交流が増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りで随時相談援助受け付けていることを記載し、町内へ回覧して頂いている。また、近隣中学校の体験学習など依頼があった時には積極的に受け入れを行なっている。不定期ではあるが介護に興味のある近隣高校生のボランティアが訪れ手作業など利用者とのふれあいを持っている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催し、区長、家族の代表、地域包括支援センター、地域民生委員に参加をいただき質問や意見、要望等をサービスの向上に活かしている。また訪問看護や近隣他事業所デイサービス管理者の参加など新たにメンバーの参加も増えている	運営推進会議は年間を通して定期的に開催しており、内容は事業所活動や利用者の状況報告、事故等の状況、防災対策等を報告している。委員からは毎回様々な意見や提言があり、事業所運営に活かされている。議事録も詳細に記録されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度空室状況など情報を提供している。また地区保険福祉センターや包括支援センター主催講演会などの会場案内員など要請があった時には積極的に参加させている	事業所では必要に応じて行政担当者に事業所運営や利用者の状況等の相談を通してアドバイスをもらっており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや外部での研修資料等を基に職員研修を開催し、また毎月身体拘束適正会議を行わない適切なケアに日々取り組んでいる。日中は玄関には施錠せずセンサーチャイムを設置し拘束をしない工夫をしている。各自での注意はもちろん、職員間でも注意しあえる環境づくりを行っている	身体拘束やスピーチロックについては研修会を通して全職員が拘束の無いケアを実践している。また、「身体拘束適正会議」を毎月開催し、全職員が意識を共有している。日中玄関の施錠は無く職員の見守りやセンサーで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者を中心に職員研修を開催また外部研修に参加し虐待のないケアに日々取り組んでいる。ついにげなく行ってしまう声掛けや行為を確認し振り返りをしスピーチロック全廃に向け取り組んでいる。職員間でも注意しあえる環境づくりを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は後見人制度保佐人を利用している利用者が1名おり、年間職員研修に権利擁護を加え、後見人制度の理解を深め実践に活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、読みあわせを行いながら一つ一つ理解と納得が得られるように努めている。あらかじめ利用者、家族には契約時には概ね、2時間前後の時間を要する事を伝え理解を求めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にご意見箱を設置したり、ご家族の面会時や利用者とは話し合う機会を設け、意見・要望を聴き、業務ミーティングなどで職員間での話し合い、運営に反映されるよう努めているが意見箱への投稿は無い	家族の要望、意見等は面会時や状況報告時、また年1～2回開催の家族会等あらゆる機会を活用して把握するよう努めている。全職員が些細なことでも言いやすい雰囲気づくりを心がけており、把握した要望や意見は全職員で話し合い、事業所運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種会議や日常の業務内で職員一人ひとりの意見・考えを述べやすい環境づくりを行い、運営に反映させている必要に応じて面談も実施している	職員は常に何でも管理者に言える環境となっており、管理者は日常の業務内で職員の意見や要望を聴取している。また、年2回定期的に個別面談を実施している。意見や要望は「業務ミーティング」や「サービス担当者会議」等で検討され事業所運営や利用者のサービスに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内のスキルアップ制度があり、各自が向上心を持って業務に就けるよう環境が整っている。また、拠点内1階と2階のスタッフ間で定期的な異動をする事で業務のマンネリ化やリフレッシュを図ったりチームワーク作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修を案内を随時実施し、参加を呼びかけると共に、参加希望者へはシフトを調整する等を行い、各自がスキルアップできるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ加入しており、研修や会議に参加することで情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている、また管理者は事業所交流会などに参加し意見検討や連携を深めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメント情報は少ないが担当ケアマネからの聞き取りや入居後もさらに再アセスを行ない信頼関係を築き安心して生活が送れるよう支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受け付けた時点でご家族の困りごとを傾聴し、不安が軽減されるよう助言を行い、安心してサービスが受けられるよう努めている。また、入居後も同様に報告・相談・連絡することで、信頼関係が構築できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け付けた際は、適切に説明・助言できるよう努め、要望を聞き取った上で他のサービスの提供に繋がる事もある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援をする方、受ける方にとわかれず一緒に生活をする家族、同士として庭先に咲いている花を見て一緒に感動したり、収穫をした野菜に感謝をし食した時には感動をする事などささいな事での思いを共有する事を大事にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、ご家族と一緒に過ごせるよう環境を整えたり、行事開催時はご家族へ参加を呼びかけている。本人・家族との絆が継続できるよう外出支援や外泊などもできるよう声掛けをしているが入居が長くなると少しずつ少なくなる傾向になる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が保てるよう、ご家族の協力を得ながら外出・外泊の支援を行い、関係が途切れないよう努めている、また入居前の馴染みの関係が途切れ無い様、随時面会を受け入れ友人関係が保たれるよう支援している	馴染みの場所や美容院の利用には家族の協力を得ながら実施している。また、馴染みの方の面会時にはお茶を出す等利用者及び訪問者が気持ち良くゆっくりと過ごせるよう支援している。訪問理美容院を利用し、新しい馴染みの関係を築いている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状には個人差があり共存に苦慮するときもあるが、利用者同士の円満な関係作りに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じてご家族からの相談に応じている、また退去後の現在の状況などの聞き取りや状況確認の為、後追い訪問などを行い近況の把握に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議や日常の会話を通じて表情や言動から本人の思いをくみ取り、気づきを重要視して把握できるよう努めている。	職員は部屋担当制をとっており、日頃のケアの中での些細な会話や表情などから、利用者の思いや意向を把握している。把握が困難な場合は本人の表情や動きの中から汲み取り、「サービス担当者会議」等で検討し日々のケアで実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、在宅担当ケアマネと連携し情報の提供でアセスメントをしている。また生活歴や日々の生活の中で把握しスタッフ間での情報共有をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個別介護記録を共有し心身の状況把握を行なっている、一人ひとりが何が必要か不必要かの見極めを行う事でより自立ができるよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書の更新時、心身の状態変化に合わせアセスメント・担当者会議を実施し、本人が抱えている問題・ご家族の要望・スタッフの提案を反映し、現状に即した介護計画書を作成している	本人及び家族とは十分に話し合い、利用者の現状に即した介護計画を作成している。利用者の日々の体調なども考慮し、家族、医師、職員が情報の共有をして日常のケアに努めている。担当者を中心に毎月カンファレンスを実施し介護計画を見直しており、状態に変化があった場合には随時計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録や、センター方式を記載していくことで、情報の共有を図り、実践・介護計画書に反映している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じて、通院等の必要な支援を実施している。また、介護保険以外のサービスの情報を提供をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣学生のボランティア訪問での回想的な活動、また近隣高齢者のイベントの参加、草刈支援など地域資源を活用し「また来てね、また来るね」と楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の要望に応じ、月1～2回、提携医による往診や他医療機関への受診等、ご本人に適した診療が受けられるようご家族にも支援をいただきながら健康の管理をしている	かかりつけ医の受診は家族対応を基本としているが、緊急時等の場合には職員が同行する場合もある。受診結果は事業所と家族が相互に報告を行い共有されている。協力医療機関から月2回の訪問診療があり、契約看護師も配置しており、利用者の心身管理に努めている。歯科医の訪問受診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を構築しており、1回／週健康チェックを実施し、また24時間オンコール体制での相談し助言を頂き、適切な医療が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至ってしまった時も定期的に面会しご家族・医療機関と情報共有を図りながら、早期に退院ができる様努めている、また退院カンファレンスにも参加させていただき、退院後の体調管理に繋げている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における指針を説明し、本事業所が出来ることへの理解していただけるよう努めている、その上で家族、本人の意向でターミナルケアや看取りを希望される場合には家族、医療との連携を図り支援をしている。またスタッフは終末ケアや看取りに関しての研修を取り入れ実践にも繋げている	「重度化した場合における対応指針」を策定しており、利用者及び家族に説明し同意を得ている。利用者の状況が変化した場合にはあらかじめ医師・看護師・家族と職員が話し合い、家族の希望に沿って柔軟に対応する体制になっている。協力医療機関の医師及び看護師の指導により看取りを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや、定期的に消防署員指導の下、人工呼吸、心臓マッサージ、AEDの使用法を習得している。更に当施設には応急普及員資格取得者が2名いる為、身近に指導が受けられる環境にある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画で各災害と昼夜を想定し、1回/月避難訓練を実施し緊急時に対応できるようにしている。また、消防署依頼時の消防訓練に近隣住民の方々に見学の案内を配布しご意見をいただけるよう努めているが協力体制が整うまでは至っていない。災害時に備え食料、備品を備蓄し、定期的に消費期限の確認や入れ替えを行っている	年2回消防署立ち会いで各種訓練を実施し、事業所では毎月定例で火災・水害・地震・夜間想定等を含む防災訓練を実施している。また、消防署の指導を受け、AED使用法や防災機器操作方法を学んでいる。非常時のものとして缶詰・水・レトルト食品・テント・懐中電灯及び衛生用品等を備蓄している。近隣住民へは回覧板でお知らせしており、区の役員等、徐々に参加が得られるようになってきている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各スタッフはコンプライアンスポリシーを理解し、コンプライアンスカードを所持している。一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーや個人情報保護等に配慮した声かけ対応を行い年間研修にも取り入れている、個人情報の保管は鍵付きロッカーで管理している	全職員は個人情報保護マニュアルをもとに研修を重ね意識を共有し、個々の人格を尊重した対応を実践している。個人情報記載の簿冊は施錠可能なキャビネットに保管され、広報紙に掲載される写真等は事前に利用者及び家族の同意を得たものだけ掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をしたいか、何を食べたいかなどスタッフの押し付けにならないよう対応をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの生活が、自宅家庭の延長と位置づけ生活リズムを崩さないよう配慮し支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活のおしゃれ・散髪等が実施できるよう支援している。自己決定を重視し今日着る服など自分で決めてもらっている。外出する時には口紅を付けたり、眉を書いたりなどしておしゃれを楽しんでいる。またほほ寝たきり状況であっても笑顔を確認しながら支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事摂取中の様子や会話から、嗜好の確認や摂取量の確認・把握を行い、または利用者の希望のメニューを取り入れ、委員会が中心となり献立を検討している。また、利用者のIADLを考慮し味見をしていただいたり、食器拭きなど一緒にできるよう支援している	法人の管理栄養士が作成したメニューをベースに、地域の特性や利用者の嗜好を踏まえたメニューにアレンジしている。調理、盛付け、後片付け等も利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。季節の行事食も多く企画し楽しんでいる。利用者個々の栄養スクリーニングを定期的実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事・水分摂取チェック表を利用し、一人ひとりの摂取量の把握に努めている、また栄養スクリーニングを定期的実施し栄養状況のリスク管理をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに関する技術的助言、指導を歯科医師・歯科衛生士から指導を受け口腔ケア、マネジメント計画書を作成しサービス提供を行なっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個人の排泄パターンを把握することに努め、トイレでの排泄が出来るよう表情確認や、声かけ等を行い、自立に向け支援している	排泄の自立を目標に「排泄チェック表」を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、経過時間や仕草等からトイレに誘導している。オムツやパット等の使用軽減につながった利用者もおり支援効果も出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時のモーニングコーヒーに牛乳を多めに入れて提供したり、適度な運動を提供することで、自然排便を促せるよう努めている。また病院から下剤が処方されている方は排便コントロールを適切に行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調等を考慮し、午前と午後の個人にあった入浴時間での支援を行っている。入浴剤を希望される方には入浴剤を用いリフレッシュを図っている。	利用者の希望により、入浴支援をしている。入浴拒否者には担当者・話題や誘導時刻等を考えながら静かに誘導し入浴に繋げている。湯は一人ひとり入れ替えている。季節感のある菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいる。入浴できない利用者には足湯やシャワー浴、清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調・状況に応じて休息を促している。また、空調や光等にも配慮し安眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の効能・効果について都度情報の共有を図っている。また、医療機関と連携し、症状に変化等ないか、十分に様子観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた行事を開催している。また、日常生活の中で個人の能力に応じた生活リハビリを実施している。余暇活動でのトランプ、将棋倒し、折り紙、塗り絵、パズルなど個々の楽しみを持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別性を重視し行える範囲で散歩や近所への買い物等、本人の要望を聞きながら実施している。また、ご家族の協力を呼びかけ車でのドライブや、外出支援を行っている	好天時にはできるだけ事業所周りの散策などを楽しんでいる。近隣の散歩や買い物等、本人の希望を聞きながら支援している。花見・花火大会観覧・青空市場への外出を楽しんでいる。また、菜園での野菜や花の栽培で外気浴を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からおこずかいとして金庫で預かっており、各自お財布を用意し買い物時には自分で支払いが出来るよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の方から電話があればご本人へ繋いでいる。手紙のやり取りなどは一部の利用者ではいるが好みの便箋やはがきの購入など支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調・湿度の調整を行い、快適に生活できるよう支援している。また、壁の装飾など季節を感じられるよう共有空間の環境を整えることで、居心地良く生活できるよう支援している	共用フロアの飾りつけは、利用者と一緒に作成した作品や季節に応じた作品を展示することで、生活感や季節感をとり入れるよう工夫している。また、共用フロアには掃き出し窓のベランダもあり避難時には有効である。好天時には日光浴やお茶会なども楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内では毎日、気の合う方々で懐メロや民謡などを聞いて楽しんだり、一緒に歌ったり、会話を楽しんだりしている、または和室やウッドデッキで思い思いに過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	馴染みの家具や装飾品を居室内へ飾り、その人らしい、落ち着いた生活が出来るような居室空間となっている	居室にはエアコン・換気扇・クローゼットが標準装備である。介護ベットはレンタルとなっている。利用者は馴染みの小筆筒・テレビ・椅子等を持ち込み、利用者一人ひとりが居心地よく安心して過ごせるよう配慮されている。利用者によってはポータブルトイレも持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日めくりカレンダーの利用や、トイレの場所がわかりやすいよう入り口ドアにトイレの絵を描くなど工夫をすることで、自立した生活が送れるよう努めている		